

# さくらで結ぶ街、人、絆

新川さくら並木連合町内会 会長 おおにし 大西 たけひこ 建彦

新川地区は、東西 7.5km に及ぶ細長く、何の変哲もない平凡な住宅地です。

町の形態は、連合町内会を結成して四十数年となりますが、西に向かうにしたがって、新興住宅地として発展いたしております。若年層が多く、それに伴い住民意識にも温度差を感じることもございます。

そんな環境下で、地域力、絆を育む施策を模索してまいりました。新川連町大運動会の歴史は長く、多くの参加者を集める自慢のイベントでし

たが、役員の高齢化、財政などの事情により平成 23 年をもって、中止の止む無きに至りました。

存続を望む声が多いものの、事情をご理解いただき、早速代替案の検討に入りました。

「新川地区には、立派なさくら並木がある。ここをシンボルロードとして、全てを発信することができないか」、その可能性について、検討してまいりました。

先人の弛まぬ努力によりまして、平成 12 年に 7.5km、755 本のさくら並木が完成しましてから昨年 15 年を迎えました。我々が日本一のさくら並木と言いますのは、この全ての木が、住民の善意により、延べ 1300 人の奉仕活動によって植樹され、苗木、その他工事に係る費用も住民の善意によるものであることを誇りとして、日本一のさくら並木と称しております。

創設された先人は、その理念を、特色のない街並みを住民が誇れる街に変えるとともに、郷土愛、絆が育まれることを念じ、「さくら並木を 21 世紀への壮大な贈り物とする」と記されております。



新川さくら並木



4月のさくら並木クリーン作戦



5月の新川さくら並木フェスティバル音楽祭



6月の新川さくら並木ウォーキング

継承する私たちは、四季を通して、ここから発信できる事業を考え、より建設的なまちづくりを模索の結果、実施事業に膨らみを持たせる形にリニューアルし、4月にはさくら並木クリーン作戦、5月はさくら並木音楽祭、6月はさくら並木ウォーキング（平成26年は550名の参加者）、来年度から新規事業として、冬期、子どもたちを対象にさくら並木スノーフェスタ（仮称）を行う予定です。このように通年事業の実施によりまして、衆目を集め、多くの思い出を共有し、郷土としての姿を認識することによって、街造りが出来ればと考えております。そこで、平成26年度より、新川連合町内会を「新川さくら並木連合町内会」と改称致し、広く皆様方の認知をいただくことと共に、住民意識と地域力、絆の醸成を確かなものとしていければと考えております。

なお、桜並木の維持管理には、多くの費用が掛かります。このため、連町として収益事業を始めました。障害者を雇用する菓子店と契約し、お菓子の販売をいたしております。ご利用いただければ幸いです。

一方、連町支援の中で進めております高齢化に伴う事業ですが、札幌市社会福祉協議会では、新川地区を初めての試みとしてモデル地区に指定し、シルバートータルサポート事業を平成26年度より北区社協と並行するかたちでスタート致しました。

既に新川地区では、民児協、新川社協、単町社会福祉部の三者が一体となって、対象者の情報共有と同行訪問、見守りなど進めておりましたが、一歩踏み込んだ内容で3ヶ年計画として実施することになりました。

対象者のニーズを的確に判断し、関係機関と連携しながら、できるだけの対応を施すもので、奥深い事業となります。多くの方の協力が求められます。各单位町内会では、そのためのボランティア、協力員などのスタッフの募集に注力いたしております。

一方、天変地異が常態化している昨今ですが、平成26年は北区役所のご指導のもと、新川中央小学校の避難訓練と同時進行の形で、避難訓練・避難所体験訓練が行われました。災害の少ない地域ですが、災害を対岸視しがちな住民の意識改革には十分に役立つものでした。なお、本年1月22日に、札幌市防災表彰を上田市長より受賞致しました。

今後いろいろな訓練を重ね、住民が災害発生時に備えた一助になるよう、努めてまいります。

防犯防災部では青色パトロール、振り込め詐欺に力点を置き、また、交通安全部では啓発活動に積極的に取り組み、年々動員数が上がっており、交通事故に対する抑止力となっています。



北区防災訓練の様子

○お問い合わせ

新川まちづくりセンター  
TEL.011-762-2604